2024.1.22　『吉田神社』節分祭 2020 を再掲

地域シリーズ　：『吉田神社』の節分祭

2 月 3 日は節分でした。立春の前日と説明され，冬の終日としないところが面白いです。最近では，これまで以上に恵方巻きや柊鰯のほか節分の意味が知られるようになりました。2 月は観光・経済ともに冬枯れの時期ですので，気分起こし・景気刺激にはカンフル剤になるようです。そこで今回は吉田神社の節分祭に行ってきました。平安京の鬼門の方向にある吉田山に鎮座する吉田神社の境内で，赤・青・黄の鬼たちが歩きまわり子供たちが怖がっていましたので，その様子をレポートします。

《ご紹介》

梔色（くちなしいろ）をご存じだろうか。『伝統色のいろは』はこの色を「クチナシの実で染めた，少し赤みのある黄色のこと」と解説する。

節分祭の吉田神社はこの色で染まる。「梔色は，古くより魔除けの力があると言われており，節分祭中の特別神符はもちろん神札神符に至るまで梔色に染められ，尚一層の御力をもってお護り頂きます。」と吉田神社の HP は説明する。

吉田神社の節分祭は，前日祭の日に疫神を祭り「荒ぶる事なく山川の清き地に鎮まります」ことを祈る疫神祭と，俗に「鬼やらい」と呼ばれ「悪神を追い払い諸人の不幸を除いて，人々の幸福と平和な生活を願」う追儺式の祭儀が行われる。追儺式は「平安朝の初期より毎年宮中にて執行されていたものを，古式に則って厳修に伝承・継承され」ているといい，「黄金四つ目の仮面を被り，玄衣朱裳を着装し，盾矛をとりて方相氏」となった大舎人が，小童を多数従えて舞殿を巡り，最後に「上卿以下殿上人が桃弓で葦矢を放ち」疫鬼を追い払う。

祭が始まって赤・青・黄の 3 種類の鬼が境内を練りまわると，親の足にまとわりついた子供たちが真剣なまなざしで鬼の行き先を見つめる。「ワオー」と声をかければ悲鳴が聞こえてくる。

当日祭には火炉祭が執り行われる。参拝者が持参した古い神札が 5m の円筒状に積み上

➢　吉田神社・節分祭

信号の如き鬼見て
雛騒ぐ

➢　追儺式

げられ，深夜になって点火される。大きな火柱が吉田山から見える夜空を焦がし，1 年分の厄除けを担った神々が天へと帰っていく。夏の送り火が眺める火であるのに対し，節分の火は暖を取りながらの復活の火であった。

余談になるが，ウィキペディアは京都の節分について「北東の吉田神社，南西の壬生寺，南東の八坂神社(または伏見稲荷大社)，北西の北野天満宮へお参りする『四方参り(よもまいり)』という風習がある。」と紹介している。

吉田神社は，平安京の守護神として 895（貞観元）年に創建されたという。1800 年代前半に造営された四殿からなる本殿は春日造の檜皮葺建物であり，本殿前面の中門及び東・西御廊は切妻造，檜皮葺の建物で石垣上に建っている。この本殿は，春日大社本殿（奈良県）と同じ形式をもつ春日造四棟並列社殿であり，細部に違いはみられるものの春日造の古式を伝え，また中門等を含む構成および配置は春日大社と共通し，歴史的，学術的に価値の高い建物であることから京都府の文化財に指定されている。

本殿のある本宮から南に行ったところには 1601（慶長 6）年に造営された斎場所大元宮がある。八角形の入母屋茅葺建物の後ろに六角形の後房を付す特異な形式の社殿は 1902（明治 35）年に国の重要文化財に指定された。節分祭には大元宮正面に節分信仰の中心をなす「厄塚（やくずか）」が設けられ，「厄神や心に潜む鬼を塚に封じ込め，社殿と繋がった注連縄により八百万の神との感応を願って一年の健康を祈るもの」とされている。

吉田神社が鎮座する吉田山は平地の中に小山を浮かべたような姿となっていて，古来より「神楽岡」（神が集いし岡）と呼ばれ親しまれてきた。そんな吉田山にも 1990 年代初頭に開発の波が訪れた。

続く

➢　火炉祭

➢　斎場所大元宮

節の火や　豆はじけ飛ぶ夜の旅立ち

➢　本殿屋根修理